

ボートレースの話題が集まるメディア向け情報誌

Propel

プロペル

Vol.31

ボートレースPR情報誌

[水面にフォーカス]
レースの舞台は水上。
様々な角度から見る意外な顔。

[ボート・モーターにフォーカス]
ボート・モーターの7つの疑問

[トリビア]
数字で見たボートレース



What about
BOATRACE?

知られざるボートレースの世界

レースの舞台は水上。様々な角度から見る意外な顔。

ボートレース場は全国で24場あります。北は群馬県にあるボートレース桐生、南は長崎県のボートレース大村です。北海道、東北、沖縄にはありません。湖や海の一部を利用したレース場もあれば、プール型のレース場もあります。24場はいろいろな顔を持っています。

レース場の大きさ

広さは東京ドーム 2 個分！

ボートレース場は縦幅75m以上、横幅440m以上の広さに定められています。ボートレース浜名湖は、長さ168.7m、幅547.3mの長方形で面積は約92,300㎡。東京ドームの約2倍もあります。

ボートレース場の水の容積は 50m競泳公認プールの 82 倍！

ボートレース場は「水深1.5m以上」と定められています。ボートレース浜名湖の容積は約138,500㎡で、50m競技プールの容積の約82倍です。



省エネと社会貢献

深夜電気でも蓄電

ボートレース丸亀のナイター照明の電源は、電気料金の安い深夜に蓄電した電池(蓄電池)4台で点灯しています。ボートレース若松も商用電気と蓄電池を併用して、電気料金の節約(約1/3)に取り組んでいます。ボートレースのナイター設備は災害時でも利用できるようにしています。

消費電力 50%削減

ボートレース桐生は、業界で初めてナイター照明にLEDを採用しました。LEDは消費電力が少なく、年間の照明の電気料金を50%削減することができています。また、LEDはすぐ再点灯できるため停電時の不安も少なく、ボートレース場のナイター照明に適しています。

停電時も安全に

ボートレース下関のナイター照明の電源は、商用電源と天然ガスを使用した常用発電機2台を使用しています。災害などで地域に大規模停電が発生した場合には、天然ガスを使用した発電機でボートレース場内へ電力供給ができるので、地域の一次避難所として活用することができます。

レース場によって 水質が変わる！

雨水も利用している「淡水」

ボートレース住之江のプールは周囲をコンクリートで固めた構造でスタンドに降った雨は、自然とプールに流れ込むように造られています。水のエコに配慮した競走水面で、水質は淡水です。

「海水」と「汽水」

レース場の水質は「淡水」の他、「海水」と「汽水」があります。汽水は海水と淡水が混じり合ったものです。ボートレース江戸川やボートレース福岡は河口近くにあるので複雑に混じり合っています。例えば、満潮時には海水が入り込み、干潮時には川の水が入ってきます。潮が満ちてくると川の流れにより競走水面にうねりが発生して、レーサー達を苦しめることもあります。このような様々な水面の状況に対応する力もボートレーサーには必要です。

自然空調 爽やかな風が観客席へ

琵琶湖は日本一の広さを誇る淡水湖。その一角にあるのがボートレースびわこです。レース場のスタンドから見る景色は観光船が通過し湖面をヨットが走るなど、壮大な景色が広がっています。「自然との調和」を基調にした観客スタンドのデザインは周囲の環境に溶け込み、湖面から入る爽やかな風は、観戦するファンを優しくつつんでいます。時に風が強すぎると、レーサーを苦しめることもあります。

知られざる水中の世界!?

湖や海の一部を利用したレース場、プール型のレース場など、同じボートレース場と言っても、様々な形や特徴があります。その水面には魚や貝、水草など様々な種類の生き物が棲んでいます。全国に24ヵ所あるボートレース場のオリジナルキャラクターは、そのレース場の周辺に生息している生き物がモチーフとなっていることも多いです。



ボートレース徳山(山口県)のキャラクター「すなっち」

ボートレース徳山のオリジナルキャラクター「すなっち」は、ボートレース徳山に紛れ込んできた、イルカの仲間の「スナメリ」をモチーフにしています。

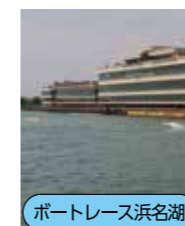


ボートレースびわこ(滋賀県)のキャラクター「ピナちゃん」

ボートレースびわこのキャラクター「ピナちゃん」は、琵琶湖に棲む日本のナマズ類の中で最も大きく成長する種類である「ビワコオオナマズ」がモチーフとなっています。

水面に吹く風は水面コンディションに影響!

ボートレースは風の影響を受けやすい競技です。スタートの時に追い風だとスピードが乗りやすく、向かい風だとスピードの乗りが悪くなります。そこで風の向きや、強さに合わせたスタートが求められます。スタートで追い風の時は、1マークを回ると向かい風になり、風を押されターン(p4*1参照)が流れてしまい回転半径が大きくなってしまいます。逆にスタートが向かい風の時は、1マークを回ると追い風になるので、回転半径を意識せずにスピードをつけたターンがしやすくなります。風と上手く付き合うこともボートレーサーには必要です。



ボートレース浜名湖

浜名湖の夏は向かい風

広い水面を持つボートレース浜名湖は風の影響を受けやすく、夏は強い向かい風、冬は強い追い風になります。レーサーの技量が求められる水面です。

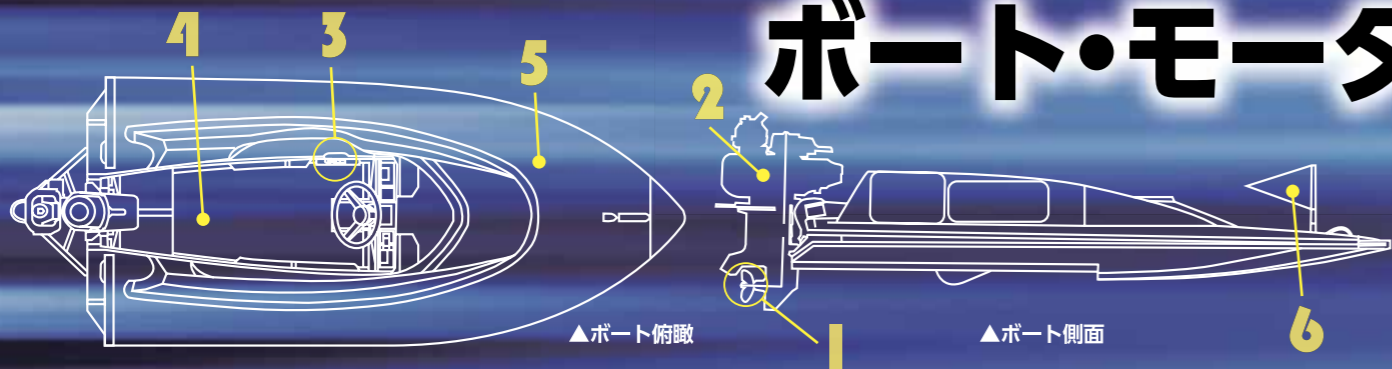


ボートレース三国

1年を通じて追い風

名勝「東尋坊」の近くにあるのがボートレース三国です。気温が上がる夏は海風、冬はシベリア寒気団からの強い風が吹き、1年中追い風です。1・2・3コースが有利なレース場で、回転半径を意識せずスピードをつけたターンが見ものです。

ボート・モーターの7つの疑問



▲ボート俯瞰

▲ボート側面

5 ボートは木製!



レースに使用するボートは木製でできています。(※) 以前は、ジュラルミン製やFRP製のボートも使われていましたが、破損した際の修理が迅速にできることなどから、現在では全て木製ボートとなっています。ボートに使われる木は、木目のつまり具合や水分の含有量によって密度が変わってくるため、ボート作りの職人たちがひとつひとつの部品のサイズや重量を管理し、前後左右均等のバランスで決められた総重量に整うよう、精魂こめて制作しています。

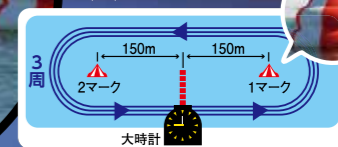
(※) カウリング部分はプラスチック

6 この旗は何のためにあるの?



この旗の名称は「艇旗(ていき)」と呼ばれ、直線航走時にボートを安定させる役目があります。1号艇から6号艇までそれぞれ色が定められ、遠くからでも識別しやすいように装着されています。

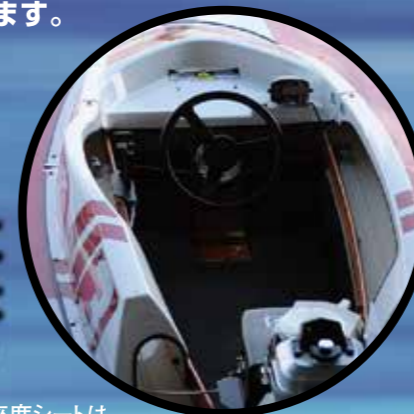
(※2) レースコース



(※1) ターンマーク
ターンマークは周囲のときの目印です。

ボートレースで使用しているボートとモーターは、スピードと耐水を基本にして軽量化が図られています。シンプルな構造だけに、調整力や操作性が必要です。そこには、選手とボートとモーターを一体化させる奥の深い技術があります。

4 ボートに座席はある?



ボートには自動車のような座席シートは無く、板の上にスポンジを貼っただけの簡単な構造となっています。レーサーたちは、直線航走時に風の抵抗を減らすために伏せ込みながら左手でレバー(アクセル)、右手でハンドルを操作しボートをコントロールします。

7 スピードだけではレースに勝てない!?

1周600m、2箇所のターンマーク(※1)のレースコース(※2)を3周回して着順を競うのがボートレースです。ターンマークでの旋回時にいかにスピードを殺さず、小さな旋回半径でターンをするかによって、順位も変わってくるので、このターンマークを回る時は技術の見せどころです。

1 時速80キロを生み出すプロペラ

20万t級の巨大タンカーのプロペラは、1分間に100回転して推進力を生み出し、船を進めます。一方、ボートレースのプロペラは、1分間に6,000回転して推進力を生み出します。同じプロペラでも、巨大なタンカーを動かすプロペラと、速度と操縦性を求めるボートレースでは用途が大きく違うので、それぞれの目的に適合した形状をしています。ボートレーサーたちは、自分の乗り方にあうようにプロペラを調整してレースに挑みます。

3 アクセルがあってもブレーキがない!?

自動車のアクセルにあたるのが、ボートの座席左側に装着されている「レバー」です。左手でレバーを握り込むと、自動車でアクセルを踏んだ時のようにボートが加速し、レバーを離すと、モーターの回転数が落ち、水の抵抗により減速します。

2 始動スイッチがない!?! 停止スイッチがない!?!

ボートレースでは、2気筒2サイクルエンジンの「モーター」をボートに装着して航走します。このモーターはボートレース専用で、レーサーたちはそれぞれの乗り方に合うように整備や調整するので、メカニックでもあります。速度と操縦性を求めるボートレースに於いては、不必要な装備品が一切搭載されていないため、車のような始動/停止スイッチはありません。

ボートの体感スピード

ボートの最高時速は、約80kmで、シャチの泳ぐスピードと同じくらいの速さです。しかし、実際にボートに乗艇してみると、目線が水面に近いこともあり、シートベルトも無いボートでの体感速度は時速120kmとも言われています。また、ペアボートという、ボートレーサーが操縦するボートに試乗できるイベントがレース場等で実施されています。試乗した人の大半が「スピードがあって面白い」「ジェットコースターより迫力がある」という感想を持ちます。それは、わずかな風や潮流などの影響で水面に波が起るため、ボートが水面を「走る」というよりも、「滑走する」というイメージをしてもらえるとわかりやすいです。そのため、スリルと迫力も想像以上となるわけです。



ターンの変遷

ボートレースは、1952年4月にボートレース大村(長崎県)で初めて開催されました。開催初日・2日目は、5箇所のターンマークを周回するルールでしたが、3日目から現在と同じルールの2箇所のターンマークを周回するレースで実施されました。

ターンマークの旋回によって、着順にも影響が出てくるため、レーサーたちはターンマークの旋回技術を磨き、また進化させてきました。草創期はスピードを落として旋回半径を小さくする「小回りターン」が主流でしたが、スピードをつけて旋回するレーサーがデビューし、結果を残していくと「全速ターン」が全盛期となりました。さらにそこから進化を重ね、旋回半径を小さくしながら高速でターンする「モンキーターン」が誕生し、現在では、ほとんどのレーサーがモンキーターンで旋回しています。



地蔵ターン

レバーを全速状態にしたまま、横流れせずにターンをする方法です。ボートの右側に体重を掛けます。



モンキーターン

ターン時にボートの上に立ち上がり、重心移動をさせながら小さな半径でスピードを落とさないターンです。



ウイリーターン

モンキーターンの進化系です。ターンから直進に移行するとき、水の抵抗を減らすために触先を上げます。

数字で見たボートレース

238億円

ボートレーサーの年間賞金総額

2016年のボートレーサーの賞金総額は238億円でした。ボートレーサーのランク別平均年収は、最上級のA1級で(約320名)約2,900万円、A2級(320名)で約1,800万円です。

男子レーサーの最高年間獲得賞金は、植木通彦元選手が2002年に獲得した2億8,418万円で、女子レーサーの最高年間獲得賞金は、寺田千恵選手(岡山)が2001年に獲得した6,721万円です。

グランプリの優勝賞金

1月から11月に開催されるチャレンジカップまでの獲得賞金額上位18名によって競われる最高峰レース「グランプリ」の優勝賞金が1億円。2016年12月にボートレース住之江で開催された「グランプリ」の優勝戦で1着になった瓜生正義選手(福岡)は、レース時間1分46秒で1億円を手にし、2016年の賞金王になりました。

1億円

53.3倍

ボートレーサー養成所の最高合格倍率!

ボートレーサー養成所への入所倍率は40倍と、非常に狭き門です。その中でも過去最高の倍率は53.3倍。受験生1,706名に対し合格者32名でした。ボートレーサーの人気の理由は、年齢を重ねても活躍できるスポーツである点や、平均年収が高く、実力次第でどんどん収入を上げられるという点です。ボートレーサー養成所では、ボートの操縦技能やモーターの整備の技術を学ぶとともに、共同生活を通して社会人としての基礎を学びます。ボートレーサーは養成所での厳しい訓練を経て、プロのアスリートとして活躍していくのです。

女子ボートレーサーの数

ボートレーサーは1,605名(2017年10月20日現在)いますが、そのうち女子レーサーは214名。ちなみに競馬の女子騎手は、JRAの1名と地方競馬の7名で合計8名です。ボートレースは、男女が同じ条件で対等に戦える数少ないプロスポーツのひとつです。近年では女子レーサーもビッグレースにどんどん出場し、男子レーサーと真っ向勝負を繰り広げるなど、レースを大いに盛り上げています。

214人

さらに

知られざるボートレースの世界 (番外編)

ターンマークヒストリー

ボートレースが始まった当初は、ターンマークは板に旗を立てただけのものでした。その後、接触事故で壊れたり、沈んだりしないように、大型ダンプのダブルタイヤになり、タイヤの上に白と赤で色分けされた円錐形のブリキ製品を乗せるようになりました。

国際モーターボート連盟規則に準拠したモーターボート国内競技規則では、ターンマークは視認性を高めるためにオレンジ色の球形パイを使用することが多いのですが、

ボートレースでは白と赤です。現在はウレタン樹脂にゴムを付着させたものを使用し、チェーンをアンカーで固定しています。

以前は、海水のレース場で干潮時にチェーンが緩んで風でターンマークが移動したり、引き潮時に沖の方に移動してホーム側の水面が広がるがありました。

なお、ターンマークを破損させると、レーサーはそのレースにおいて失格となります。



レーサーたちのダイエット事情



スポーツ選手とは切っても切れない関係にある減量。その中でも、ボートレースは体重が勝敗を大きく左右するスポーツのひとつです。男子では51kg、女子では47kgの「最低体重」が設けられているのが特徴です。体重が軽いほどレースで有利になるため、レーサーたちはこの「基準」に近づけようと、日々減量に励んでいます。レースは1年を通して行われるので、彼らにとって減量は終わることのない課題です。レースがな

い日もトレーニングジムに通って体重を絞っている選手も少なくありません。

人気女子レーサーの富樫麗加選手(東京)は、満腹中枢を刺激するためにガムを噛んで食べすぎを防いだり、食欲を減退させる「青色」の絵や画像を見て食欲をコントロールしたりといった減量法を実践しています。ボートレーサーは、レースのプロとしてだけでなく体重管理のプロとしても常に工夫を重ねていく必要があるのです。

気象にまつわるレアな事象

1987年、暖冬の影響を受け、ボートレースびわこの年末レースで一寸先も見えない濃霧が発生したことがありました。ターンマークの位置確認ができず走行に支障をきたすので、レースは中止になりました。早朝発売をしていたので、メンバーを変更して次の日の番組(*)表を組み直します。翌日もまた延期。またしても番組表の変更、翌々日もまた濃霧で順延。レースはなくても既に早朝発売をしているので、連日の番組変更です。とうとう4日目に開催中止。新聞記者さんは毎日変更になった番組で予想を立て、記事を書き続けましたが、ついに陽の目を見ることはありませんでした。

2009年9月、ボートレース徳山では台風による高潮の影響で消波装置がスタンド側の岸に押し上げられ、復旧工事のためにレース中止を余儀なくされたこともあります。



(*)番組 = 各レースでの出場選手の組み合わせ

日本財団の紹介



日本財団に関する情報はこちらから ▶ <http://www.nippon-foundation.or.jp/>
 日本財団会長 笹川陽平ブログ ▶ <http://blog.canpan.info/sasakawa/>
 民の立場から公への貢献をモットーに内外の現場で公益活動を実践。
 年の三分の一を海外活動に充て、
 海外情報や時事問題など多角的視点から情報を発信しています。

日本財団会長の
笹川陽平ブログ



日本最北のボートレース場です。群馬県みどり市にある阿左美沼をレース場として使用、標高約128mとボートレース場の中では一番高い位置にあります。標高が高いと気圧が低くなるため、モーターのパワーが落ちると言われています。また、季節によっては風の影響を受けます。冬から春先に「赤城おろし」と呼ばれる強い追い風が吹くと、水面が波立ちます。

1997年9月にボートレースで初のナイター開催を実施しました。今は「ドラキリュウナイター」という名称で通年、ナイター開催をしています。

ボートレース桐生 検索 🔍



[ボートレース桐生 : 〒379-2311 群馬県みどり市笠懸町阿左美 2887]

- 東武線ご利用の場合 (特急りょうもう号) 新桐生駅下車 徒歩30分 タクシー5分 (桐生線) 阿左美駅下車 徒歩15分
- JR線ご利用の場合 (両毛線) 岩宿駅下車 徒歩15分
- 東武線新桐生駅より往路無料タクシーの「朝日タクシー」、JR岩宿駅より無料巡回バスもごさいます。詳しくは、ボートレース桐生HPでご確認ください。



近郊の見どころ&食べどころ



わたらせ渓谷鐵道

栃木県足尾銅山から産出される鉱石運搬のために敷設された鉄道です。足尾銅山が閉山になり、現在は桐生駅を起点に、わたらせ渓谷鐵道として、渡良瀬川の美しい渓谷に沿って走る観光路線になっています。土日祝日にトロッコ列車も運行。水沼駅には温泉も併設されています。



ソースカツ丼

かつ丼は、かつを溶き卵でとじたものが一般的ですが、群馬県のソースカツ丼は、ご飯にキャベツの千切りを乗せ、さらにその上にソースに浸したカツを乗せたものです。ソースカツ丼は群馬県の代表的なB級グルメです。ボートレース桐生のレストランでも人気メニューです。

取材の申し込み・お問い合わせはこちらまで



広報部 広報宣伝課
 〒108-0073
 東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館
 TEL 03-3451-0501
 FAX 03-3451-0429

BOAT RACE 振興会ウェブサイト
 ▶ <http://www.boatrace-pr.jp/>
 BOAT RACE オフィシャルweb
 ▶ <http://www.boatrace.jp/>



「ISO/IEC27001:2005」を
認証取得

BOAT RACE 振興会は、2010年7月25日付で、全部門を対象とした情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の国際認証基準「ISO/IEC27001:2005」を認証取得しました。

BOAT RACE
振興会ウェブサイト



編 | 集 | 後 | 記 |

ボートレース広報、新入社員の松岡です。この度は、『PROpel』をお手に取っていただきありがとうございます！『PROpel』は、ボートレースを知っている方はもちろん、まだご存じでない方にもボートレースのたくさんの魅力をお伝えするために制作しております。入社してから半年、まだまだボートレースの知識は乏しい私ですが、『PROpel』とともに成長できればと思います。読んでくださったみなさまに、「ボートレースって、いいなあ。」と思っていただけることを目標に、頑張ります！



広報部 広報宣伝課 松岡彩映